新子　達中寺

# 木造 阿弥陀如来立像 修復報告書

巧匠堂

# 達中寺　木造 阿弥陀如来立像

# 修復報告書

令和２年４月14日

巧匠堂

# 達中寺　木造 阿弥陀如来立像 修復報告書

作成日：2020 年 4 月 8 日

委　　託　　者　：　達中寺 （奈良県吉野郡吉野町新子 314）
修 復 責 任 者　：　吉水快聞
施　　工　　者　：　吉水快聞　鈴木冬覺　畑景子
修　復　期　間　：　平成 30 年 3 月 2 日～令和 2 年 4 月 14 日
目　　的　：　解体状態の台座の復元、本体の尊容回復、
内　　容　：　台座の組み上げ・接合、台座の構造強化、亡失・欠失箇所の補作、クリーニング、剥落止め、後補部材の新補、光背の新補、漆箔層の剥落部分の補彩・漆塗 補箔・古色など

【法量】（mm）( 修復後）

総高（台座底～光背の頂点）889

・木造阿弥陀如来立像
像高 ( 足ホゾ含む )　535　　像高（足ホゾ含まない）　493　　髪際高　461
白毫高 452　　頂～顎　91　　裾張　142　　耳張　63　　最大奥 133　　胸奥　76
面奥　69　　足ホゾ出　37　　足ホゾ前後　10　　足ホゾ幅　22

・光背（新補）
総高（ホゾ含む）　683　　高（ホゾ含まない）652　　ホゾ高　31
最大幅　365　最大奥　43

・台座
高　253　幅　294　奥　254

【制作年代】
本像の制作年代についてははっきりとはわからないが、典型的ないわゆる安阿弥様の阿弥陀如来立像の姿を踏襲しているため快慶以降（13 世紀以降）の作であることは間違いない。漆箔層の保存状態などから江戸時代中頃から江戸時代末頃かと推測されるが確かな根拠はない。

【保存状態】

本体）

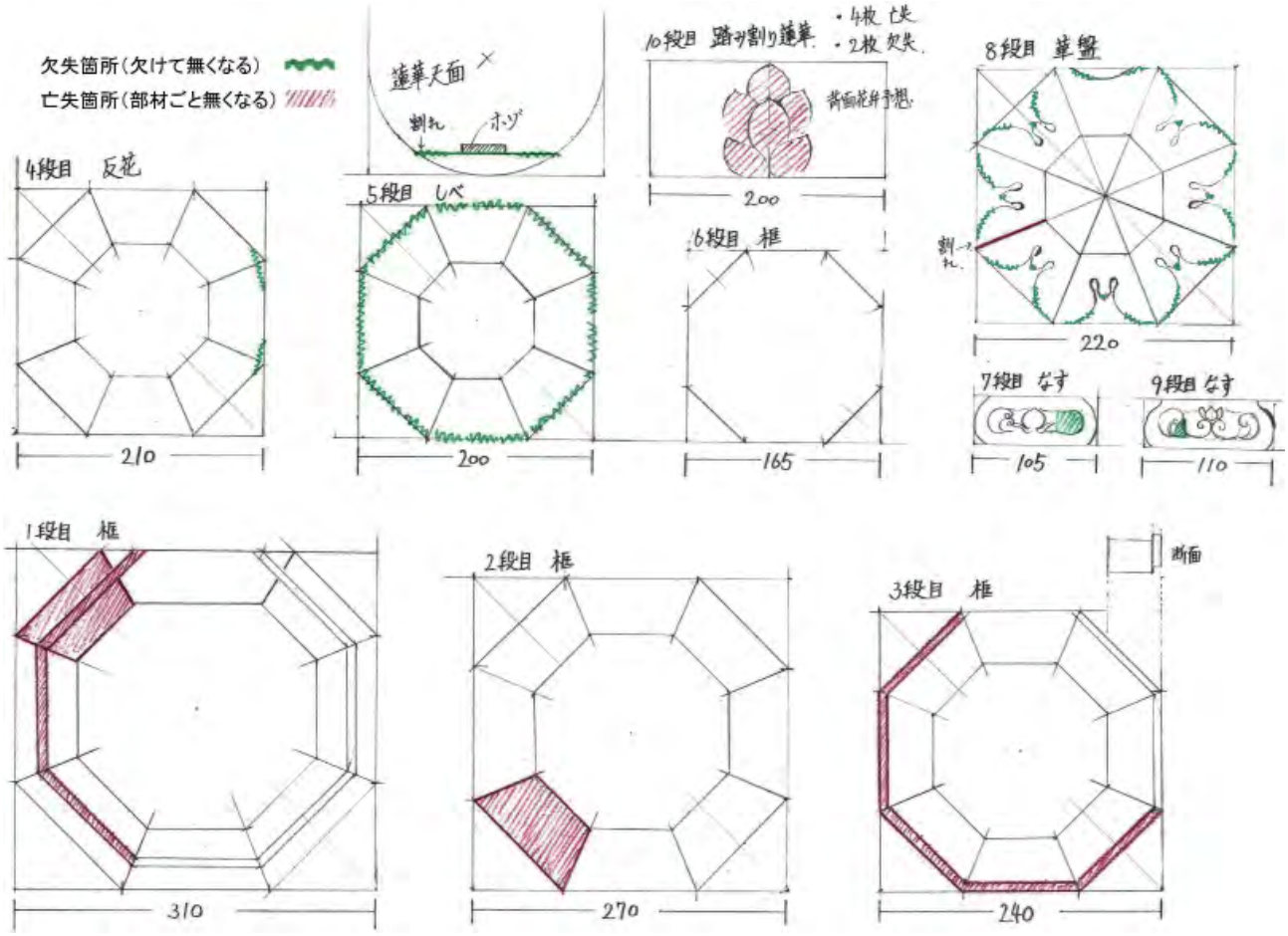
左側頭部の螺髪が一部欠失。左手第 1、3、5 指を欠失。右袖手首上を 5mm 程欠失。右袂前側を 2 か所欠失。両手首から先と右腕の下部が遊離。右手首から先が後補。頭部面部右側と顎の漆箔層が剥落及び遊離、頭部面割の矧ぎ目に沿って漆箔層の剥落及び遊離。背面と胸前に白色の汚れあり。全体的に埃の堆積がみられる。

光背）

亡失

台座）

解体の状態にあり、段ボールにて保管。全体的に油煙や埃の堆積がみられる。各所に漆箔層の剥落及び遊離がみられる。構造材ほとんどなく非常に脆弱である。部材の欠失亡失箇所はおおよそ下記の図の通り。



【修復方針】

［本体］

◇後補の右手は形状不適合の為、新補する。

◇遊離した面部は外して玉眼のクリーニング後、再接合を行う。

◇像全体に油煙の付着や埃の堆積がみられ、容姿を損ねていると同時に湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるためクリーニングを行う。

◇全体は現状維持を基本とし必要に応じて、剥落止め、補彩、欠失した部材の補作を行い、尊容の回復を行う。

［台座］

◇解体状態で段ボール箱に保管されていた台座は、クリーニング、剥落止めなどの処置後、組み上げる。また、部材の遊離箇所については必要に応じて解体してから再接合する。

◇亡失（部材が無くなっている）や欠失（部材の一部が欠けている）箇所については檜や木屎漆を用いて補作する。

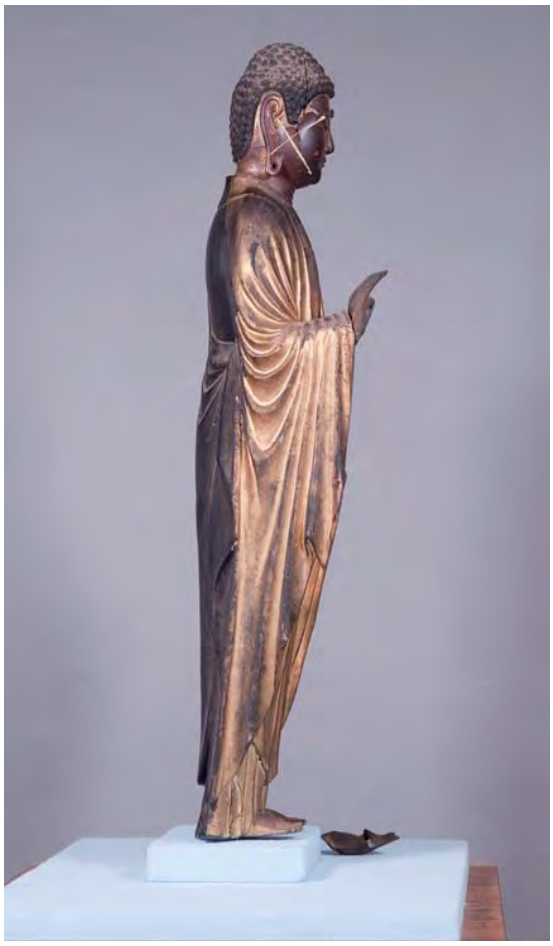
◇修復箇所は全体に違和感のないように古色仕上げとする。

［光背］

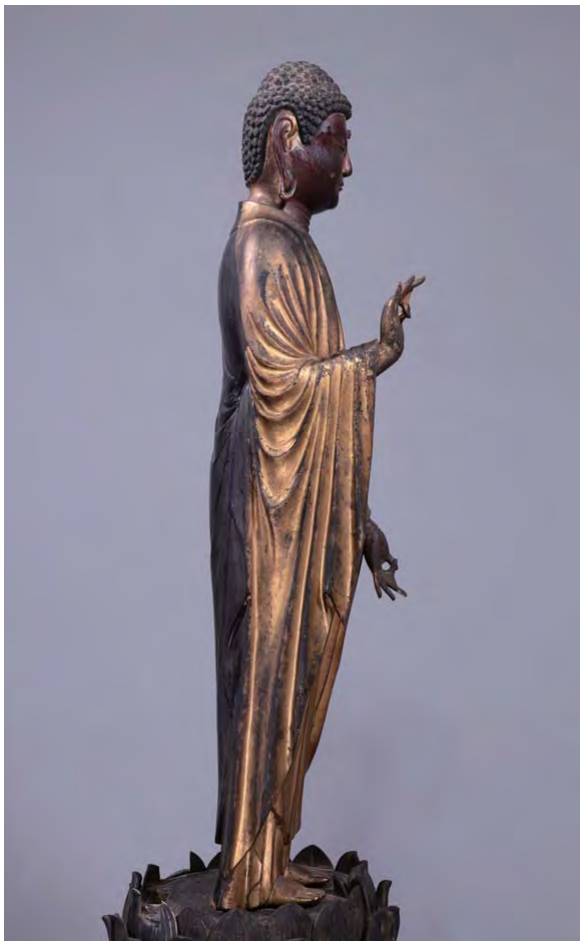
◇現存していないため新補

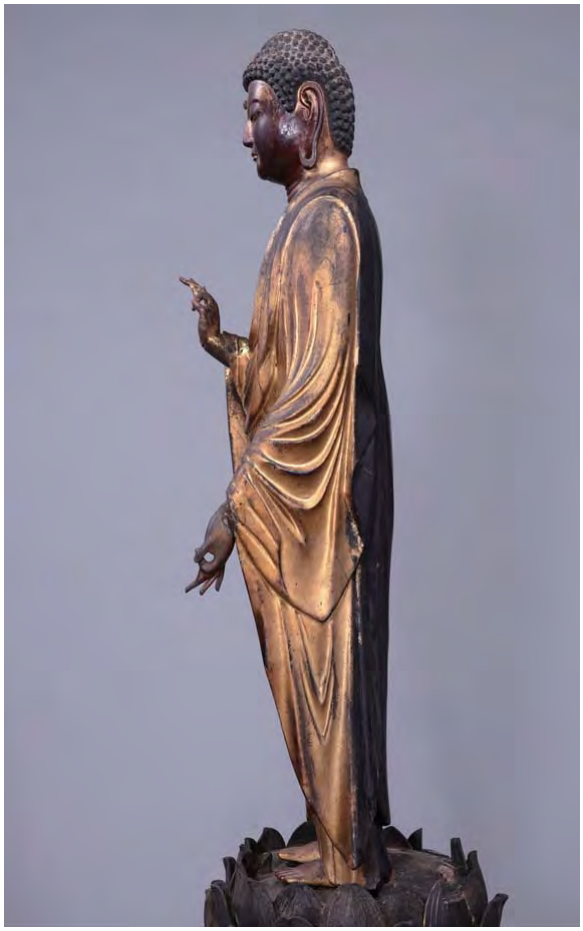
修復前（本体）

修復後（本体）



修復前（本体）





修復後（本体）

修復前（本体）

修復後（本体）

修復前（台座）

台座正面

台座右側面

台座背面

台座左側面

修復後（台座）

修復後（台座・光背新補）

修復後（全体）

## 【本体修復内容】

### 1 クリーニング

埃などの堆積は、容姿を損ねていると同時に進行すると　湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるため現状を大きく変えない程度のクリーニングを行った。

・全体に埃の堆積がみられたので刷毛などを使って除去
・油煙などの汚れはについてはエタノール精製水（1：1）を含ませた綿棒を用いてクリーニング

背面クリーニング前

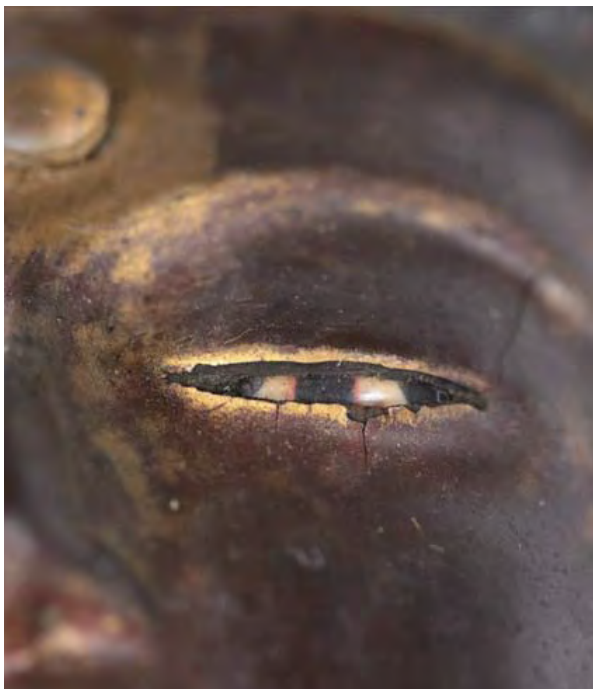
背面クリーニング後

## 2 面部と玉眼の解体、クリーニング、再接合

面部は面割矧ぎ目から漆箔層の剥落・浮上がりがみられ、膠による接着が緩んでいることや、玉眼の白目部分に茶褐色のシミがみられるため、一度解体してクリーニングを行い、再接合した。

修復前頭部
（漆箔層の浮上がりが激しいため、剥落防止にマスキングテープ（黄色）で仮止めしている状態）

修復前玉眼右目



修復前玉眼左目

白目である真綿に茶褐色のシミがみられる。

1, 面割矧ぎ目にへらを差し込んで解体

2, 玉眼を固定している竹釘と当て木を外すと真綿がかなり劣化していることが分かる。

3, 劣化した真綿を取り除き、レンズをクリーニングした。（黒目の墨と縁取りの朱も取れている箇所は少し加色）

4, 真綿は再利用するには劣化が激しいため新しい真綿に取り変えた。

5, 元の通りに当て木を当て、竹釘で固定

修復後玉眼右目

修復後玉眼左目

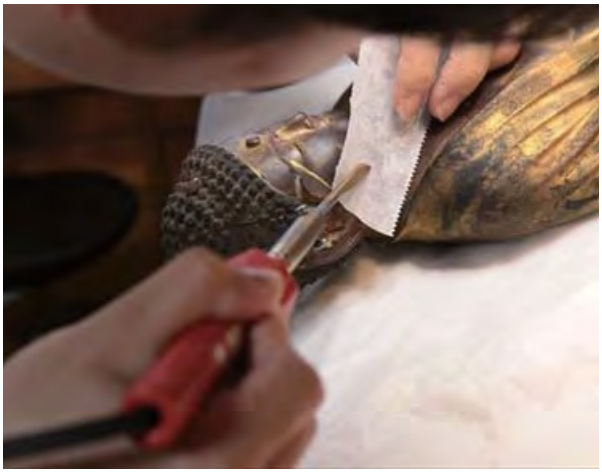
6, 面部を酢酸ビニル樹脂（木工ボンド）で再接合。矧ぎ目部分の浮上がった漆箔層の間には、アクリル系接着剤を筆で流し込み同時に剥落止めも行う

## 3 剥落止め

全体に漆箔層の浮き上がりのある個所は、剥落が進行しないように木地と漆箔層の間にアクリル樹脂系接着剤を筆などで流し込み、熱ゴテを用いて圧着した。

特に漆箔層の浮上がりが激しかった頭部

剥落片がある場合はピンセット等を使用して元の位置に戻す。



接着剤を筆などで流し込み、テフロン紙を当て熱ゴテで圧着した。

剥落止め処置後の頭部

## 4 剥落箇所の修復

漆箔層の剥落箇所には錆漆（漆＋砥の粉）を塗り研いで表面を整え、違和感のないように色漆を塗り古色仕上げを施した。

錆漆を塗り研いで表面を整えた状態

周囲に合わせた色漆を塗り違和感のないように古色仕上げ

## 5 後補の右手先の新補、欠失した箇所の補作と充填、古色仕上げ

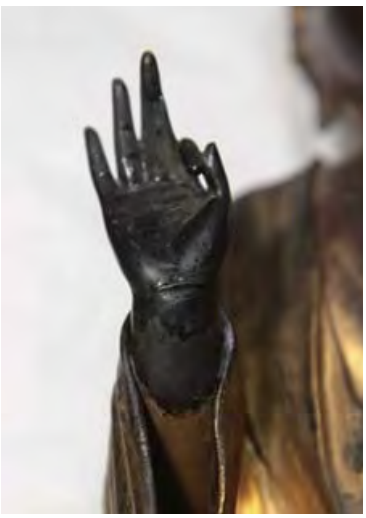
各欠失・亡失箇所を檜を用いて補作、矧ぎ目などの隙間には、木屎漆（漆＋小麦粉＋木粉）を充填、硬化後に表面を成形→錆漆（漆＋砥の粉）を塗り研いで表面を整え→黒漆塗り→必要に応じで箔押し、違和感のないように古色仕上げを施した。

付いていた右手先は後世の補作であり形状不適合ため檜で新補した。また左手の指先等も欠失がみられたため檜で補作した。

右袖前方にも欠失がみられたため檜で補作

1, 手先と袖の補作（木地）

2, 錆漆の下地→黒漆塗り



3, 研いで表面を整える

4, 箔押し漆を刷り込む

5, 金箔を押す

6, 金箔を押した状態

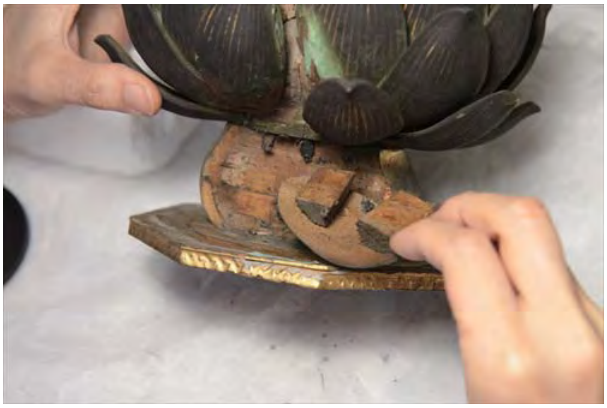
7, 違和感のないように古色仕上げ

## 【台座修復内容】

### 1 解体

台座は既に解体状態にあったが、接合されている部分でも膠による接着が弱って将来的に外れそうな部材は必要に応じて解体した。

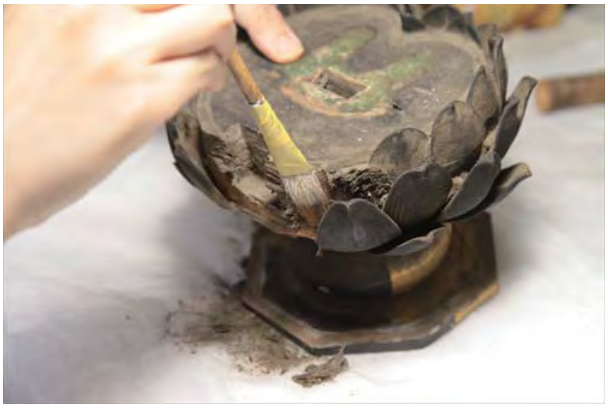
外れている蓮弁



敷茄子の解体

### 2 クリーニング

埃などの堆積は、容姿を損ねていると同時に進行すると　湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるため現状を大きく変えない程度のクリーニングを行った。



刷毛で全体の埃を除去

隙間に入り込んだ埃や塵を竹串等で除去

台座全体の油煙などの汚れはをエタノール精製水（1：1）を含ませた綿棒を用いてクリーニング

## 3 檜材で補作・構造強化

必要に応じて部材を組み上げながら、各欠失・亡失箇所を檜を用いて補作した。

台座蕊部材の組み上げ・接合

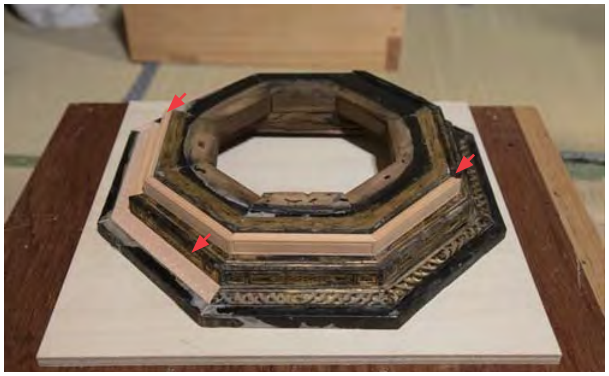
華盤の接合（糸で縛って固定中）

亡失・欠失した蓮弁の補作

亡失した蓮肉の光背ホゾ部分の補作

下敷茄子の欠失箇所の補作

上敷茄子の欠失箇所の補作



框の欠失箇所の補作

華盤の欠失箇所の補作

## 4 構造強化

構造が非常に脆弱のため解体状態にあったとみられる。今後の保存に耐えうるよう構造材を入れて補強した。

反花の構造強化

框の構造強化（画像は框底面より）

## 5 木屎漆で補作・充填

木で補作出来ない箇所については、木屎漆（漆＋小麦粉＋木粉）を盛り、硬化後に表面を彫刻刀で成形した。

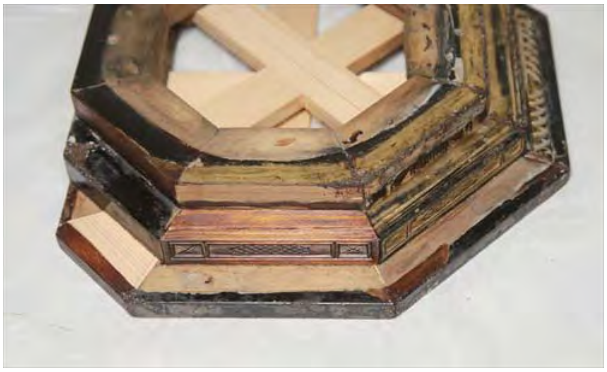
欠失箇所に木屎漆を竹べら等で盛って、硬化させる。

硬化後、彫刻刀などで成形する。
（必要に応じて、何度か木屎を盛ったりを繰り返して形を復元した。）

## 6 木地固め→錆漆下地・漆塗り・箔押し・古色仕上げ

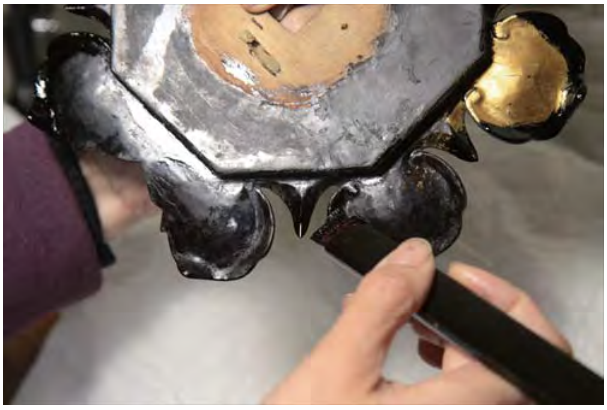
檜や木屎漆での補作箇所や漆箔層の剥落箇所などに、周囲に合わせ、錆漆（漆＋砥の粉）→黒漆塗り→金箔を押しを施した。

1, 補作部材に生漆を浸み込ませて木地固め



2, 剥落した箇所などにも同様に生漆を浸み込ませて木地固め

3, ヘラ等で錆漆を塗り、研いで表面を整える



4, 錆漆の下地が出来たら黒漆塗り

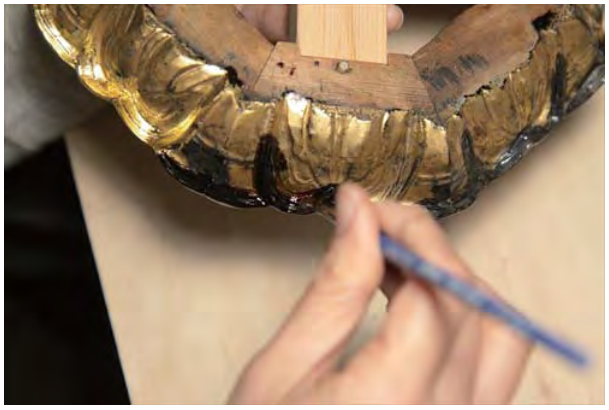
蕊部分

華盤部分

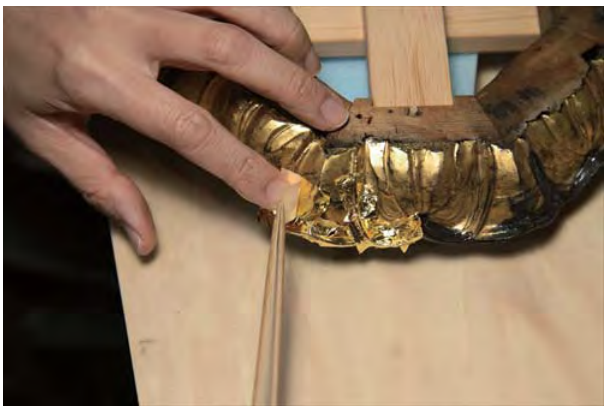
框部分

下敷茄子部分

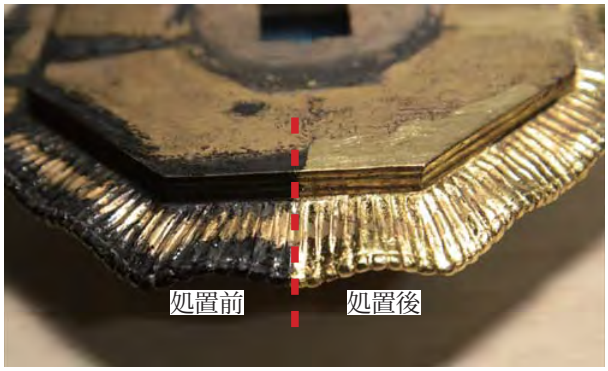
5, 漆塗りが完了した状態

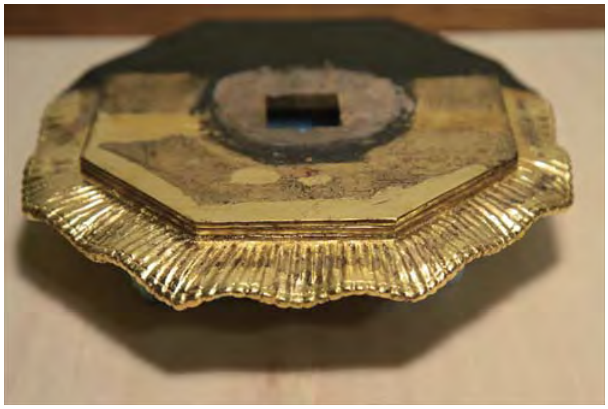


6, 黒漆を研いで表面を整えた後、箔押し漆を刷り込む



7, 金箔押し



蕊部分

華盤部分

框部分

反花部分

8, 箔押しが完了した状態

## 7 古色

漆塗り、金箔押しまで施した修復箇所に、漆や顔料、アクリル絵の具等を用いて、周囲と違和感のないように古色仕上げを施した。

蕊部分

華盤部分

框部分

反花部分

古色仕上げ

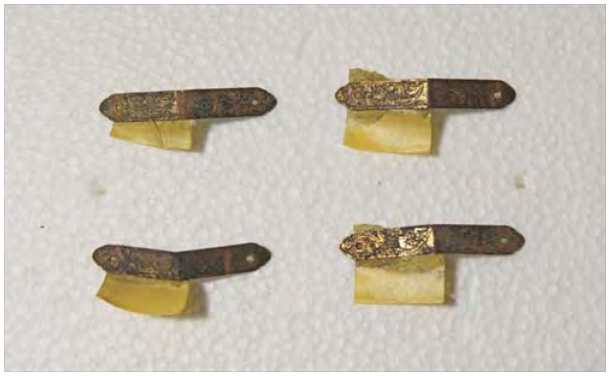
補作した蓮弁は木地固め→錆漆を塗り、研いで表面を整える。

当初部材に合わせて、顔料で彩色後、截金を入れ古色仕上げ

## 8 飾り金具のクリーニング・歪みの修正・取付

取り外した修復前の金具

クリーニングし、歪みを補正



修復後の金具

真鍮釘で取り付ける。

## 9 芯棒の新補

台座の中心に通す芯棒は構造的に脆弱であったため檜で新補した。

## 10 組み上げ

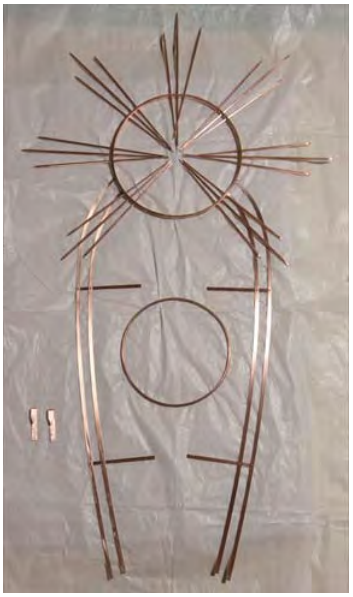
台座全体を水平垂直を気にしながら組み上げて修復完了

## 【光背】

1　新補　木地製作→周縁部を金具で制作→漆塗り→金箔押し→古色仕上げ

光背については全く現存していなかったため、違和感のないように新補した。

身光・八葉蓮華・光脚部分は檜で制作し、錆下地・黒漆を塗る



周縁部の二重円光と閃光は銅で制作

組み立て、金箔を押し、古色仕上げで完成

巧匠堂

代表　吉水 快聞

e-mail : kaimoncbr@msn.com